8/3 朝日

元飛行兵 安保法の廃案願う

無職　（岡山県　86）

先の大戦を陸軍少年飛行兵として過ごし、多くの上司、先輩、同期を主として沖縄特攻で失った旧軍人です。その悲惨さを身をもって体験しているので、野蛮な戦争行為は絶対にしてはならないと思います。軍隊という人殺し集団があったから、戦争は起きました。

二度と軍隊はいらないと思っていたら1946年11月3日、日本国憲法公布。第9条「陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない」と明記してあり「やった！これで将来生まれる子孫も戦争で死ぬことは絶対無い」と万歳を叫びました。

ところが1950年の朝鮮戦争を契機にGHQ（連合国軍総司令部）の指令で警察予備隊ができ、2年後には保安隊に。さらに自衛隊に改名。新憲法公布からたった8年後のことです。

今国会では戦争を知らない若い議員が集団的自衛権だと騒ぎ、衆院で安全保障関連法案を可決。戦争には集団的も個別的も前方も後方もない、始まったら全て人の殺し合いだ、ということを経験者としてぜひ教えたいのです。廃案になることを願ってやみません。

愚かな戦争 芽のうちに摘む

無職　（埼玉県　77）

70年前、あのひどい戦争が終わった。私は小学2年生だった。

住んでいた埼玉県の山村は貧しかった。はだしで学校へ行く友だち。その日の弁当が、新聞紙にくるんだサツマイモ1本という子が何人もいた。私もその一人だった。

着る物も粗末だった。こいのぼりの生地で作ったシャツを着た男の子がいた。日の丸の旗を縫い合わせた服の女の子もいた。私のシャツは鍾馗様を描いた旗で作られていた。鍾馗様の顔が背中に来るように、母が作ってくれた。

日中戦争以降、第2次世界大戦の日本人の犠牲者は約310万人。空襲や原爆で多くの市民が死に、街が破壊された。

アジアの人たちもたくさん殺された。今も悲しみは消えない。

せっかくこの世に生まれながら、人と人との殺し合いで死んでしまうなんて。「愚かな戦争」。今となれば誰もが思う。戦争につながるものは、芽のうちに摘み取らなくてはならない。